

Androgynyな生き方に関する研究（1）

福本 俊

A Study of an Androgynous Way of Life

Shun Fukumoto

キーワード：アンドロジニーな生き方、性役割、自我同一性、自己開示性、青年女子

問題：高齢化社会とは人口の7%以上が老年人口（65歳以上）であるような社会を指し、人口の14%以上が老年人口であるような社会を高齢社会と呼ぶ。わが国は1970年には7.1%（高齢化社会）に、1994年には14.1%に達していた。従ってその時点で既に高齢社会になっていたことになる。7%から14%になるのに費やした年月は僅か25年余りで、これは西欧諸国の3.4倍の速さである。高齢者人口は2020年（平成32年）まで急速に増加し、その後は概ね安定的に推移すると予想される一方、総人口の減少のために、高齢化率は上昇を続け、2050年（平成62年）には35.7%に達する勘定である。国民の3人に1人は65歳以上の高齢者になると言う事である。一方、平均寿命も延びつつあり、WHO（2002年度）によれば女性は85.23歳、男性は78.32歳である。これは社会的な引退後、女性20年、男性15年もの自由な暮らしが控えていることを意味している。ところで、いよいよ自分自身の時間が持てるようになるにも拘わらず、わが国の中高齢者、取り分け男性にとって旗色の良くない状況が広がっている。即ち、自殺率と熟年離婚率の増加である。これら2つに示されているのは人間関係の脆弱さである。これは働き盛りの年代をすっかり会社に絡め捕られ、地域はおろか、ともすると家庭においても他者との人間らしい関わりを紡ぎ上げるゆとりを奪われて来た事の必然の結果でもある。更に言えば、このような人間関係の脆弱化は何も中年期になって初めて生じて来るのではなく、寧ろ幼少期から継続してきたものと言える。例えば、小学校教育が始まると、わが国では競争的事態が子どもたち—中でも男児には特に—を取り囲む。そのような状況下では、子どもたちは学べば学ぶほど仲間とはライバル関係になり孤独にならざるを得ない。このような事態を招いている主な要因の1つは我が国に根付いている性役割意識であろう。「男性は外で仕事、女性は内で家庭を守る」と言うものであり、かのパーソンズの言う道具的特性と表出的特性と重なる。そのために男児には将来家族の扶養者たるべく教育が開始される。ところで、現在において、性役割即ち「男らしさ」や「女らしさ」に拘ることは時代錯誤であると言われるかもしれない。確かに現在の日本では「男女共同参画社会」は常識となっているの感さえある。男とか女とかに捉われず、1個の人間として生きることが大切であるという意味である。共働き家庭も全家庭数の半数になろうとしている（2005年度国勢調査によれば、子どもなし家庭では49.6%、子どもあり家庭では35.7%である）。では次のような事柄はどのように説明するのであろうか。学校では女子は委員長よりも副委員長など男子を支える立場がまだまだ多い。社会に出れば同じ働きでも男

性よりも待遇が低く、管理職につく割合は酷く少ない。育児休業を取る男性はまだまだ珍しく、100人いても1人にも満たない状況（父親の休業取得率は0.8%（2002年度）、因みに母親は84.9%）である。これは男性の育児参加への意識の低さだけでなく、給与面での待遇の低さから、若いカップルでは女性が敢えて夫に育児休業を取らせないと言う現象も起きている。共働きで子どもを保育所に預けている場合、子どもが熱を出した時、保育所からは父親にではなく、先ず母親の職場に電話がかかる。これらは性役割の「負」の面の世代循環である。このように見てくると理念とは別に、「女性は男性を側から支える脇役に徹するのが良い」という暗黙の性役割観が今なお根深く生きていることがわかる。男女が同一である必要は全くないにしても、対等とは程遠い有様である。以上のような現実があるからこそ、男女とも「性役割に捉われ過ぎず、1個の人間として生きる」ことが一層求められていると思われる。具体的には、人間関係の脆弱化を防ぐために、特に男児の幼少期からのコミュニケーション能力・技能の養成と言う根本的で息の長い対応が要請されており、これはこれからのわが国の緊要な社会的・教育的課題と考えられる。

Androgynyな生き方・生き方尺度について：男女とも「性役割に捉われ過ぎず、1個の人間として生きる」生き方がここで言うAndrogynyな生き方である。ここで筆者の提案している「Androgynyな生き方・生き方尺度」について説明したい。この種の尺度では、Bemによる尺度・BSRI（Bem Sex Role Inventory）が画期的なものであった。BSRI以前の尺度は男性性と女性性を両極に位置づけた一次元の物差しであり、女性的であれば必然的に男性的ではなく、女性的でありしかも男性的であるという事はないと考えられていた。この点に関してBemは男性性と女性性を独立した次元と考えた。一人の人間は、自らの内に男性性も女性性も併せ持つことができると考え、そのような状態のことを心理的両性具有性（Androgyny）と名づけた。このようにBemに考えさせた背景には、1970年代のフェミニズムの台頭があったと思われる。

BSRIは男性性特性（頼りがいのある・決断力のある・行動力のある、など）・中性性特性（ポジティブ語・ネガティブ語各10項目：人情味のある・正直な；おろかな・不真面目な、など）・女性性特性（思いやりのある・子どもをかわいがる・やさしい、など）を示す20項目ずつの計60項目から構成されている。Bemが提案しているアンドロジニー得点の算出方法は、次の2通りである。(1) 男性性得点と女性性得点のそれぞれの偏差値の差を使って算出する。この差が少ない方がアンドロジニーであるとされる。(2) 男性性得点平均値・女性性得点平均値共に4.9以上の個人をアンドロジニーな人間と見做す。この4.9と言う得点は男性性得点平均値・女性性得点平均値の中央値から来ている（青野・森永・土肥，1999）。所で、これらの算出方法については夫々に問題点がある。(1)については、男性性得点と女性性得点が共に高く・差が少ない「両性具有型」と、反対に男性性得点と女性性得点が共に低く・差が少ない「未分化型」の識別ができないと言う問題点である。(2)については、この基準によれば前項(1)の「未分化型」を識別できるものの、データ収集と言う実際問題の点で難点がある。即ち、得られたデータ数を大幅に削除することになる事と、それに伴ない「男性性得点－女性性得点」で算出されるアンドロジニー得点の分布の範囲が非常に狭められるという点である。BSRIは単独に使用されるのではなく、他の心理学的諸尺度と併用されるという現実を考えた時に、この実際上の問題点は決して軽視できない。更に、BSRIの「中

性性」項目とアンドロジニーとが混同されやすいこと、また 20 項目ずつの「向男性性項目」「向女性性項目」「中性性項目」の内、特に「中性性項目」の他の 2 領域への移動が見られる（泉（2003）によれば、本来男女間に有意な差が無かった中性性特性項目の内、男性の方が有意に望ましいといと考えられた項目が 5 項目、女性の方が有意に望ましいといと考えられた項目が 7 項目認められた。）等の問題点がある。この最後の点は、BSRI では男性性尺度と女性性尺度の独立性は保証されたが、両因子に負荷しない不適切な項目が存在する、と言う伊藤（1986）の指摘にも通じるものである。以上のことから、アンドロジニーについての概念的妥当性を満たしており、アンドロジニー得点がより直接的に算出できるような尺度が考案される必要がある。この必要性から提案されたのが Androgyny な生き方尺度（福本、2002）である。それらの項目群を表 1-1、表 1-2 に示す。今後は、この尺度の妥当性・信頼性の吟味を継続的に行うことが課題である。

目的：これまで筆者が行ってきた「自我同一性尺度」及び「自己開示性尺度」との関係性を明らかにする。これを通して上記の課題、即ち、Androgyny な生き方尺度の吟味の一資料とする。筆者の研究によれば、女子青年においては「自我同一性得点」と「自己開示性得点」との間には有意な正の相関が認められている。よく開示する事と自分をより積極的に捉える事との間に強い関連性があるという事である。その結びつきの意味は不明であるが、前向きに自分を捉える事が自信になり開示する度合いが高まること、逆に開示する事によって自分をより明確に理解し、自分の弱さをも引き受け易くさせている、などは一つの解釈である。

表 1-1：性役割現実像項目 Table 1-1 Sex role-behavior inventory (real items)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活において、性別にとらわれずに行動する方である 2. “女性向け”と思われる役割・仕事することに抵抗がある 3. “男性向け”と思われる役割・仕事することに抵抗がある 4. 自分は男らしい部分と、女らしい部分の両面を併（あわ）せもつている 5. 自分は男性、女性という性別にとらわれず一人の人間として生活していると思う 6. 男性っぽい言動をとる女性に違和感を覚える 7. 女性っぽい言動をとる男性に違和感を覚える 8. 自分は状況に合わせて、強く主張することも人に従うこともできる 9. 自分に子どもがいたら、父親の役割も母親の役割も場合によっては、できると思う 10. 自分は育児・家事も仕事もうまくできるタイプだと思う。 |
|--|

表 1-2：性役割期待像項目 Table 1-2 Sex role-behavior inventory (ideal items)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活において、性別にとらわれず行動したいと思っている 2. 自分は男らしい部分と、女らしい部分の両面を併（あわ）せもつていたい 3. 自分は男性、女性という性別にとらわれず一人の人間として生活したいと思っている 4. 自分は状況に合わせて、強く主張することも人に従うこともできるようになりたい 5. 自分に子どもがいたら、父親の役割も母親の役割もしたいと思う 6. 自分は育児・家事も仕事もうまくしたいと思う |
|--|

方法：質問項目：自我同一性 Rasmussen, J. E. による自我同一性尺度（REIS）72 項目の中から特に内部相関を参考に採択した 36 項目（表 2）。REIS は Erikson の提案する発達図

式の6つの危機からなる。各危機6項目のうち1項目ずつを例示すれば次の通りである（数字は項目番号。Rは逆転項目）。基本的信頼対不信（8最終的に職業を決定したら、きつとうまく人生を乗り越えられるであろう。）・自律性対恥と疑惑（3いったん決断したことについて、くよくよしたり考えたりしない。）・自主性対罪悪感（9R私はこれまで学校のクラブ活動や生徒会活動に進んで参加する方ではなかった。）・勤勉性対劣等感（5私の勉強の成果が人と比較される時でも、私は最大の能力を発揮することができる。）・同一性対同一性混乱（2R誰も私のことを理解してくれないように思う。）・親密対孤立（4私はとても話しやすい人間ようだし、自分でもそう思う。）。評定は「非常に当てはまる」から「全く当てはまらない」の7段階。 自己開示性： 加藤（1977）を基に鳥居・福本ら（1992）の作成した尺度項目に新たに1項目（アルバイトについて）を加えたもの（表3）。開示対象者は父親・母親・配偶者・同胞・友人・先輩・先生の7者。評定は、十分に話す（2点）、表面的に話す（1点）、何も話さない（0点）、寧ろ嘘を話す（-2点）。

Androgyny な生き方尺度：表1-1；1-2参照

表2 Rasmussenの自我同一性尺度（REIS）項目

従来の尺度項目は72項目であるがその中から36項目選択した。選択に当たっては各領域内の内部相関係数が高いものから順に6項目ずつ採択した。更に、数項目については、質問内容が理解しやすいように表現上の変更を多少行った。以下に採択した36項目を掲げる。それぞれの末尾（ ）内の数字は、REISの原版での項目番号である。またRは逆転項目を意味する。

I. 基本的信頼感〔時間的展望；他者への信頼感；好機の喪失感〕

1. 将来の目的や欲しい物を手に入れるために、現在の楽しみをあきらめるとしたら、悔いが残るであろう。(1R)
8. 最終的に職業を決定したら、きつとうまく人生を乗り越えられるであろう。(16)
10. 気をつけていないと、人は私の弱味につけ込もうとするだろう。(20R)
11. 一般的に、人間は信頼できるものだと思う。(21)
33. 私は本当の幸せや成功につながるようなチャンスを逃してきたような気がする。(67R)
36. 私は、欲しい物を手に入れるのに時間がかかりすぎるならば、そのものに興味を失ってしまう方だ。(72R)

II. 自律性〔自己確信；自律感；恥に対する恐れ〕

3. いったん決断したことについて、くよくよしたり考えたりしない。(5)
7. 友人の前で失敗しても、別にくよくよしない。(12)
13. 私くらいの年になれば、両親が反対しても、自分のことは自分で決断しなければならない。(24)
21. 自分の人生なのだから大事なことは人に頼らないで、自分で決断を下していると思う。(42)
31. 大体の場合、自分が決断した以上は、あとで悔やむことをしない。(63)
35. 人とやかかく言われるぐらいなら、人前では口をつぐんでいる方がよい。(71R)

III. 自主性〔家族や自己の育ちに対する嫌悪；集団での役割取得；自主性〕

9. 私は、これまで、学校のクラブ活動や生徒会活動に進んで参加する方ではなかった。(19R)
16. わたしはいつもあくせくしているが、どんなに一生懸命やっても、他の人ほどには成果があがらないように思われる(27R)
18. 青年が悪戦苦闘して克服していることの1つは、自分の家族との関係や、親からのしつけ

- に関することである。(32R)
23. 私は家族に誇りを感じている。(44)
28. 10代の時期に、クラブなどの集団活動に参加することのなかった人は、損をしてきている。(57)
30. 私はいつもあくせくして忙しいが、ともすればカラまわりばかりして、うまく前へ進んでいないように思える。(60R)

IV. 勤勉性〔達成への努力；競争への過剰意識；仕事（課題）に対する集中力〕

5. 私の勉強の成果が人と比較される時でも、私は最大の能力を発揮することができる。(9)
6. 通常、勉強（仕事）しなければならない時には、それがいかなるものであれうんざりしてしまう。(11R)
14. もし必要ならば、1つのことに注意を集中するのも難しいことではない。(25)
24. 私は1つのことに集中することができない方だ。(45R)
29. 私は難しいことがらに挑んでいくのが好きである。というのは、それを成し遂げることによって、大きな喜びが得られるからである。(59)
34. 私は、人と張り合ったり競争する場面で仕事やスポーツをするとき、特にそのことが苦にならないし気楽に楽しむことができる。(69)

V. 同一性〔心理・社会的健全さ；自己概念と他者意識の一致；計画性・目的性および自己の進む方向の了解〕

2. 誰も私のことを理解してくれないように思う (2R)
12. もし、自分の容姿がもっとよければ、もっとよい人生が送れるだろう。(23R)
15. 私は、人生において本当に何をしたいのか決めることができない。(26R)
25. これまで、私の仲間は私の能力に対して正当な評価や理解を示してくれなかった。(48R)
27. 私は、本当に欲しい物を我慢して待つことができない方だ。(50)
32. 将来自分が何をしたいか確信を持っており、あるはっきりした目標を持っている。(64)

VI. 親密性〔親密な対人関係；なじまない人や信念の拒絶；対人関係における情緒的孤立〕

4. 私は、とても話しやすい人間のようにだし、自分でもそう思う。(7)
17. 人との集まりで、他の人が私の考えに同意しないのではないかと思うと、自分の意見をはっきりと主張するのにためらいを覚える。(28R)
19. 集団内で、私はちゅうちょすることなく、自ら正しいと思うことをはっきり表明できる。(34)
20. 私は人との集まりで、他の人をなごませたり、楽しませたりする社交性があると思う。(35)
22. なごやかに、気楽にやっていくためには、他人とうまくやっていかねばならないが、それ以上親密になる必要もない。(43R)
26. たとえ好意を持って活動を共にしてきた人でも、本当にその人を知ることはなかったように思う。(49R)

これらについて、7段階評定を行う。

- 1：全然あてはまらない。
- 2：あてはまらない。
- 3：あまりあてはまらない。
- 4：どちらともいえない。
- 5：ややあてはまる。
- 6：あてはまる。
- 7：とてもよくあてはまる。

表3 自己開示性の質問項目

〈話す程度〉						
0・・・そのことについては何も話さない。						
1・・・話すことは話す、それほど深く話さない。従って相手の人は、あなたのその方面のことについて、おおよそのことを知る程度。						
2・・・十分にくわしく打ち明けて話す。従って相手の人は、あなたのその方面のことについての正確な知識と理解を持つことができる。						
X・・・そのことについては、「うそ」をついたり、不正確に述べたりして、あなたの本当の姿をかくそうとする。						
〈例〉	父	母	きょうだい	友人	先輩	先生
自分の好きな歌手について・・・	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(1)
[注意] (1) 例えば、この例の場合、自分の好きな歌手が、特にいないような場合は、仮にしているとした場合を考えて、答えて下さい。						
(2) 友人と先輩については、最も親しい友人と先輩の場合として考えて下さい。						
(3) 該当する人物がいない場合は、()は、空欄のままにしておいて下さい。						
	父	母	きょうだい	友人	先輩	先生
(1) 自分の容姿について・・・	()	()	()	()	()	()
(2) 自分の好きなテレビ番組、音楽、美術、文学などについて・・・	()	()	()	()	()	()
(3) 学校の勉強について・・・	()	()	()	()	()	()
(4) 自分の性格について・・・	()	()	()	()	()	()
(5) 現在の政治について・・・	()	()	()	()	()	()
(6) 学校での友人関係・人間関係について・・・	()	()	()	()	()	()
(7) 自分の健康状態について・・・	()	()	()	()	()	()
(8) 自分の好きなスポーツについて・・・	()	()	()	()	()	()
(9) 学校の課外活動について・・・	()	()	()	()	()	()
(10) 自分の大事にしている考え方や、信念について・・・	()	()	()	()	()	()
(11) 親子関係のあり方について・・・	()	()	()	()	()	()
(12) 学校以外での友人関係や人間関係について	()	()	()	()	()	()
(13) 自分の体力・運動能力について・・・	()	()	()	()	()	()
(14) 自分の夢や空想について・・・	()	()	()	()	()	()
(15) 自分の進学の希望について・・・	()	()	()	()	()	()
(16) 自分の能力や可能性について・・・	()	()	()	()	()	()
(17) 将来の進路や職業について・・・	()	()	()	()	()	()
(18) 異性について・・・	()	()	()	()	()	()
(19) アルバイトについて・・・	()	()	()	()	()	()

対象：N女子大学1年次生115名。今回の報告は60名分。年齢は19歳～22歳。

調査年月：2010年7月5日。

予想：

1. アンドロジニーな生き方尺度得点（現実尺度と理想尺度と総計）と友人への自己開示性得点との間には高い相関が認められるであろう。
2. アンドロジニーな生き方尺度得点（現実尺度と理想尺度と総計）と自我同一性尺度（REIS）得点との間には高い相関が認められるであろう。
3. 友人への自己開示性得点と自我同一性尺度得点との間には高い相関が認められるであろう。

結果・考察：アンドロジニーな生き方尺度得点（現実尺度と理想尺度と総計）と友人への自己開示性得点と自我同一性尺度（REIS）の順位相関係数を表4に示した。

予想1については友人への開示性と理想尺度得点及び総計との間には高い有意な相関が認められた。現実尺度得点との間には相関が見られなかった。予想2については予想通りにREIS総合計とAndrogyny現実像・総合計との間に高い有意な相関関係が認められた。理想尺度得点との間には相関の傾向が認められている。予想3については、友人への自己開示性とREIS総合計との間には有意な相関関係が認められなかった。

これらについては更にサンプルを増やしたり、尺度内の各項目の分析をする必要があろう。更には、男性の対象者を求めたり、より年少の対象者に向けての尺度構成が考えられよう。

表4 相関係数

		rsokei	frisokei	randro 合計	iandro 合計	andro 総合計
Spearman のロー	rsokei 相関係数	1.000	.194	.414**	.239	.414**
	有意確率(両側)	.	.177	.002	.085	.002
	N	54	50	53	53	52
frisokei	相関係数	.194	1.000	.192	.343*	.312*
	有意確率(両側)	.177	.	.165	.010	.022
	N	50	55	54	55	54
randro 合計	相関係数	.414**	.192	1.000	.464**	.863**
	有意確率(両側)	.002	.165	.	.000	.000
	N	53	54	59	57	57
iandro 合計	相関係数	.239	.343*	.464**	1.000	.819**
	有意確率(両側)	.085	.010	.000	.	.000
	N	53	55	57	58	57
andro 総合計	相関係数	.414**	.312*	.863**	.819**	1.000
	有意確率(両側)	.002	.022	.000	.000	.
	N	52	54	57	57	57

**相関は、1%水準で有意となります(両側)。

*相関は、5%水準で有意となります(両側)。

参考文献：

福本 俊 (2008) Androgyny な生き方尺度の提案 日本家政学会誌 Vol.59, No.10

Bem, S.L. (1974) The Measurement of Psychological Androgyny, Journal of Consulting and Clinical Psychology, 42(2)

榎本博明 (1997) 自己開示の心理学的研究 北大路書房

泉亜由美 (2003) 性役割観についての研究 第2報—日本の性役割観の現状—日本女子大学大学院 紀要家政学研究科・人間生活研究科, 9